

奈良県立医科大学 学報



October
2008

vol.26

CONTENTS

「奈良県地域医療等対策協議会」の設立と進捗状況	1~2
7対1看護実現をめざして	3
ホオジロ通信	4
医学教育シリーズ 16	5
平成19年度決算	6~7
附属病院から/看護部から	8
研究紹介(化学 山本講師)	9
研究紹介(第一解剖学 東野教授、東野講師、東学内講師)	10
公開講座開催結果	11
病棟紹介(B7・B5・C3)	12
組合バレーボール/学園祭	13
オープンキャンパス実施結果/ 都市エリア産学官連携促進事業/住居医学研究会	14
レポート	15
平成21年度入試日程/下ツ道	16

「奈良県地域医療等対策協議会」の設立と進捗状況 (中間報告)

学長 吉岡 章

奈良県では平成18年と19年に周産期・産科医療に関わる不幸な事例が発生した。後者の件については直ちに本学附属病院の状況と考え方をホームページに掲載し、私共の立場を表明すると共に産科医療の過酷さについて広く社会の理解を求めた。奈良医大の永年にわたる献身的な地域医療への貢献にもかかわらず、この事例の発生は奇しくも奈良県の抱える地域医療提供体制の脆弱性を露呈するところとなり、荒井正吾知事による上記協議会の設立の端緒となった。

設立(平成20年5月14日)から8月末までの進捗状況を概述する。

- 1. 趣旨:** 県民の健康に対する自覚を高め、医療への参加意識の高揚を図る。予防から治療、在宅医療に至るまで、多様化する患者のニーズに応じた医療サービスを提供する。在宅医療や在宅介護の連携による地域ケア体制を推進する。
- 2. 目的:** 奈良県における健康・医療・福祉の現状と課題を踏まえ、県民が住み慣れた地域で安心して生活できる医療等の実現に向け、具体的で分かりやすい対応策の検討と事業の推進を計る(キーワードは「役割と責任の明確化」→誰が何をするのか)。
- 3. 推進体制:** 会長として吉田修本学学長、副会長として塩見俊次県医師会長と私。加えて各界の有識者、医療関係者の28名(別表)。健康長寿、救急医療、へき地医療、産婦人科・周産期医療、小児医療、公立病院改革、医師確保、看護師等確保、の8つの専門部会を置いた。それぞれに主な検討項目を定め、部会長及び各専門部会メンバーを選任した。また、健康長寿部会の中にワーキンググループ(がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病)を置いた。

4. スケジュール：5月14日に設立記念講演として、千葉県立東金病院長 平山愛山先生の「地域医療のネットワーク作り」と(財)長寿科学振興財団理事長 小林秀資先生の講演があった。全体の協議会は5月から明年3月までに4回開催し、各専門部会とWGの会合は各5回程度開催予定。また、2回の公開シンポジウムを予定。第1回は7月30日に「みんなで作るナラの医療～奈良の医療が良くなるように考えていただきたいこと～」を開催し、ゲストの聖路加国際病院名誉院長 日野原重明先生が長寿の秘訣を、日野原先生と荒井知事、高橋裕子奈良女子大学教授のお3人の鼎談も行われた。

ほかに、城西大学 伊関友伸氏による「病院経営マネジメント講座」が数回開催される予定。すでに1回目の講座には県下の病院長・事務長さん達が多数参加された。その他8月29日～30日には、日本一大きな村、十津川村で地域医療ワークショップ「星降る夕べに医療を語る」が開催され、知事、県会議員、橿原市会議員の方々の他、私や大学教職員や医学生（本学からも多数参加）、研修医、へき地医療担当医師、ナース、職員や行政職等が多数参加し、大いに盛り上がった。

今後、各部会WGと全体協議会との連携と対応が次年度予算獲得を目指して繰り返し行われ、3月末に実行計画案を報告する予定である。

協議委員

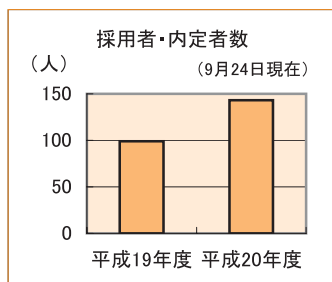
区分	氏名	所属
会長	吉田 修	公立大学法人奈良県立医科大学特別顧問
副会長	吉岡 章	公立大学法人奈良県立医科大学理事長・学長
副会長	塩見 俊次	奈良県医師会会長
委員	桜井 立良	奈良県病院協会会長代行
委員	森本 清治	奈良県歯科医師会会長
委員	赤井 幸男	奈良県薬剤師会副会長
委員	土井理久實	奈良県看護協会監事
委員	平岡とみ代	日本助産師会奈良県支部長
委員	山田 全啓	郡山保健所長
委員	猪岡 秀夫	奈良県消防長会長
委員	籠島 忠	県立奈良病院長
委員	中島 俊一	市立奈良病院管理者
委員	井上 芳樹	近畿大学医学部奈良病院長
委員	吉田 誠克	大和高田市市長
委員	上田 直朗	川西町長
委員	吉岡 利泰	奈良県社会福祉協議会常務理事
委員	岡本満寿美	奈良県PTA協議会会長
委員	平井 基陽	県老人保健施設協議会会長
委員	辻村 泰範	県老人福祉施設協議会会長
委員	村上 良雄	奈良NPOセンター副理事長
委員	秋山 美紀	慶應義塾大学総合政策部専任講師
委員	内田 玄祥	近畿厚生局健康福祉部医事課長
委員	小林 秀資	(財)長寿科学振興財団理事長（健康長寿部会長）
委員	榊 壽右	公立大学法人奈良県立医科大学附属病院長（救急医療部会長）
委員	今村 知明	公立大学法人奈良県立医科大学健康政策医学教授
委員	伊関 友伸	城西大学経営学部准教授（公立病院改革部会長）
委員	中村 達	県立五條病院へき地支援部長（へき地医療部会長）
委員	小林 浩	公立大学法人奈良県立医科大学産婦人科学教授（産婦人科・周産期医療部会長）
委員	西野 正人	県立三室病院副院長（小児医療部会長）
委員	福井 博	公立大学法人奈良県立医科大学附属病院臨床研修センター長（医師確保部会長）
委員	飯田 順三	公立大学法人奈良県立医科大学医学部看護学科長（看護師等確保部会長）

7対1看護実現をめざして

附属病院看護部では、「7対1」看護体制の導入を目標として掲げています。今回は、「7対1」看護体制導入に向けての取り組み結果を佐伯副院長兼看護部長に伺いました。結果はおおむね順調であり、200人確保まであと一息とのこと。次の一手の説明とともに、職員へのメッセージとして知り合いへの就職の働きかけを呼びかけています。

本日は、よろしくお願いいたします。前号では、「7対1」看護体制に向けての意欲をお伺いしました。今回は、その取り組み結果をお伺いしたいと思います。まずは、佐伯部長のご感想はいかがですか？

— 前回お話ししましたが、現場のスタッフや看護学科の教員の方々のご協力もあり、おおむね順調な結果となっています。10月以降もこの調子で看護職員の確保ができれば、平成21年4月に「7対1」を導入できる可能性は高いと思います。



具体的に何人の採用者または内定者を確保できたのでしょうか？

— 「7対1」看護体制導入のためには、200人の看護職員を確保する必要があります。今日（平成20年9月24日）現在の状況では、これまでに143人の採用者または内定者を確保できています。昨年度と同じ時期には、99人の採用者または内定者しか確保できていなかったことと比較すると、前年度比で約1.5倍多く確保していることになります。

200人まであと50人というところまで来ているわけですね？

— そうですね。「7対1」看護体制導入まであと一息というところまで来ています。みんなの努力が数字として現れていることが、非常にうれしいです。前回お話ししましたが、今年度はいろいろ新しい試みを行いました。募集パンフレットの全面刷新、卒業学校に貼っていただくポスターの作成、車内広告の実施、インターンシップなど、スタッフ全員の協力がなければできないことばかりです。それらが着実に実を結んでいることを実感しています。



社内広告ポスター（近鉄電車）



内定者懇親会
(9月21日実施)

あと50人を確保するための取り組みを教えてください。

— まずは、看護学校の訪問、病院見学会の開催などを考えています。また、新たな取り組みとして、募集ホームページの刷新と車内広告の実施を考えています。募集ホームページについては、これまで内部で部分的な修正を施してきましたが、今回は、プロに頼んでデザインを一新したいと思っています。また、車内広告については、前回近鉄で実施しましたので、今回はJRで実施することを考えています。

最後に、「7対1」看護体制導入に向けて、職員に対するメッセージをお願いします。

— 「7対1」看護体制導入のため、ぜひ知り合いの看護師・助産師の方に当院への就職を勧めていただきたいと思っています。また、新たに就職する方が増えることも大事なことです。現在働いている方々が働き続けることも非常に重要なことです。そのために、当院および看護部の改善すべき点をひとつずつ改善していきたいと思っています。「こんなところを改善した方が良い」というご意見がありましたら、ぜひ私や看護副部長にご連絡ください。

佐伯副院長兼看護部長の連絡先は次のとおりです。

TEL: 内線3213、E-mail: saekeiko@narmed-u.ac.jp

看護師 7対1導入に向けて 助産師募集

今後の試験日程

11月23日(日)
12月21日(日)

病院見学会随時受付中

詳しくは附属病院ホームページをご覧ください

最近、思うこと

附属病院長 榊 壽右

世の中の状況はバブルのころからだろうか？、全く変わってしまったように思える。例えば、わたしが小学生や中学生の時には当たり前だった学校での拭き掃除を今の小学校や中学校では全くさせないと聞く。もし拭き掃除をさせて指に棘でも刺さるとすぐに親が出てきて学校の責任だと騒ぐかららしい。わたしの住む街に鋳物工場がある。鉄を溶かして枠にはめる工場で世界に名だたる自動車会社のエンジンの土台部分を作っている。夏には50度を超える過酷な労働条件であるが、そこに働く若い日本人はいない。そこで働いているのは、年取った日本人か海外からの出稼ぎ労働者である。いくら募集しても若い日本人は応募してこないらしい。どうしてこのような世の中になってしまったのか。わたしは国民が墮落してしまったからこのようになったとは思えない。何故なら、どこかで震災があって困っている人がいると聞けば、多くの若者たちがボランティアとなって泥まみれ、汗だくとなり困った人たちを助けに行っている。また多くの若人が青年海外協力隊として過酷な環境で奉仕活動に従事している。わたしの子供のころには、みんな自分のために過酷な労働条件でも頑張っていたが、ボランティアとなって無報酬で人を助けに行ったという話はあまり聞いたことはなかった。結局、人間としての生き方に対する価値観がすっかり変わったからではないかと考えている。

人として最も重要な機能を発揮するための重要な脳の部分は前頭前野である。前頭葉には運動領野、帯状回を含む内側部分や底面部分も含まれるが、正確には前頭前野とはこれらを除いた前頭葉外側部分を指す。先を見据えた計画性ある行動や、あらゆる問題点を統合して一つの結論を導き出すのは、まさに前頭前野の働きである。最近の研究によれば、この部分の発達完成するのは、生後20年以上もかかるという。わたしは、人の行動の中でも最も前頭前野が大きくかかわっているものに“我慢をする”ということがあると思っている。最近、若者が突飛な行動を起こしたというニュースを耳にしたりするが、これは前頭前野がなお未発達なためなのかもしれない。またすでに老熟の域に達していると思われる人、例えば“ある県のトップ”などが、突然、喜怒哀楽的行動を示すのを見ては、この人にも既に前頭前野の萎縮が始まっているのだらうと思ったりしている。医療の世界に携わっている人たちにだけは、前頭前野の未発達状態や、早期萎縮のきたしていない人たちであってほしいと願っている。少しは人のために犠牲になってもらってもかまわない、人のために尽くすことを惜しまないと考えている人たちであってほしいと思っている。

話は変わるが、大学の医師や看護師諸君たち！！、大学病院で高度医療に携われることを誇りに思っていてほしい。そして医師や看護師になろうと志した、若かった？時の夢を生きがいとしてほしい。最近、新聞に掲載されるのは、どこそこの自治体病院では医師がいなくなったために破格の年俸で募集しているとか、あるいは豪邸を用意して医師に来てもらったといった内容のものが目立つ。医師の待遇改善、それは同時に高額な給与を保証するものだと誤解し、法外な報酬を要求する人もあると聞く。看護師についても同様である。今、看護師と同じ年齢で同じような給料を得ている人は、一流の大学を出ている人でもないであろう。それでも、少しでも楽？で給与の高い所に躊躇なく変わってゆくと聞く。生活には枠というものがある。例えば、1ヵ月10万円の生活をしてきた状態から20万円の生活に広げれば、もう10万円の生活には戻れない。一度、ハードな生活から楽な生活に慣れれば、二度とハードな生活には戻れない。どのような高尚な人生観、正義感を持っていても、広げた生活の枠、緩めた生活の枠を元の枠に戻すことは極めて困難でありそれが故に墮落していく。これが人生というものである。常にハードで厳しい生き方を自分に課してゆくと、課してゆこうと思いつけること、それは良いとか悪いとかの問題ではない。そのような厳しい生き方をしてこそ真の医療人と言えるのではないのか。

待遇改善とは、医師は医師の仕事に集中でき、看護師は看護師の仕事に集中できる職場環境を整備することである。しっかりとした人生観を持ち、医師不足、看護師不足に対する待遇改善という名にかこつけた生活の枠の拡大や緩みを起こさないように自分自身を律しようではないか。



ホオジロ

【ホオジロ通信のいわれ】

ホオジロの鳴き声は「イッピツケイジョウツカマツリソウロウ(一筆啓上仕り候)」と聞こえるといわれます。本学教職員および関係者の皆様に一筆啓上仕るという意味で、この欄をホオジロ通信と名付けました。

医学教育シリーズ：より良い医学教育を目指して

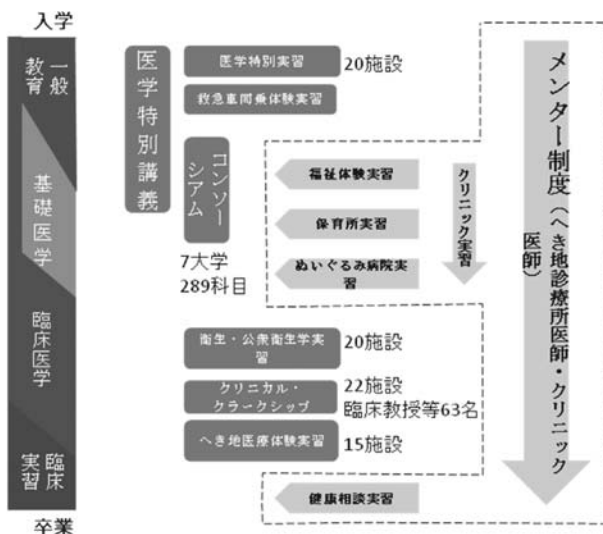
シリーズ
16

「地域に教育の場を拡大した包括的教育の取組：6年一貫で学ぶ地域基盤型医療教育カリキュラムの実現に向けて」が、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されました。

教育開発センター 教授 森田 孝夫
（総合医療学）准教授 藤本 眞一

本学は、平成18年度から新カリキュラム「MDプログラム奈良2006」を開始し、「6年一貫教育」、「成人教育学に基づいた教育」、「地域を基盤とした教育」の3つの方針のもとに医学科のカリキュラム改革を進めてきました。さらに、本年度から、入学選抜制度に新たに「緊急医師確保特別枠」が導入されるなど、大学には地域に定着する医師の養成が期待されています。しかし、このような地域医療に意欲的な学生を入学させても、その意欲を卒業まで持続させるのは困難であり、このためには相応の教育カリキュラムが必要となります。そこで、本年から、地域で教育し、地域での交流の成功体験を増やすことによって、学生の地域への定着を促進するという考え方に基づいた「地域基盤型医療の教育カリキュラム」を新しく策定し、来年度から実施することになりました。

このカリキュラムの概念図を示します。左のバーは入学から卒業までの時間の流れを示し、既存のプログラムに、点線枠の新規のプログラムがドッキングする形で6年一貫型のカリキュラムとなることを示しています。



具体的に、内容を説明します。

「メンター制度とクリニック実習」は、このカリキュラムの根幹をなす制度で、緊急医師確保特別枠の学生および一般枠学生からの希望者にメンター医師を割り当てます。へき地医療のメンターにはへき地診療所医師になっていただき、小児科、産婦人科および麻酔科のメンターには、県医師会の開業医師に協力を依頼します。夏休み、冬休みなどの長期の休暇を利用して、実際の臨床の現場に出かけ、現場を見学、介助者として活動もし、現地医師から指導を受けます。また、一般枠学生については、1年次から4年次の4年間に1回、メンター医師である開業医を訪問し、地域医療の現場を体験する「クリニック実習」をすべての学生を対象に実施します。

教育開発センター内に地域基盤型医療教育セッション設置し、ここに専用ホームページを作成して各施設とコンピュータ・ネットワークで接続し、メンターから

提供された学生への指導内容や指導履歴等をサーバー・コンピュータに登録し、資料として活用するとともに、カリキュラム評価に用いたり、卒後のキャリアパス支援にも対応する予定です。

他の新規カリキュラムとして、2) ぬいぐるみ病院実習、3) 保育所実習、4) 健康相談実習を追加します。

「ぬいぐるみ病院実習」は、3年次に実施します。園児が大事にしているぬいぐるみを模擬患者に見立て、園児にはぬいぐるみの親になり、学生はそのぬいぐるみを診察し、学生が親役の園児に病気のことを説明します。学生の目標は、子供たちに病気の説明や健康教育が出来るようになってもらうことです。

「保育所実習」は、同じく3年次に実施します。保育所において幼児と1対1でのコミュニケーションを通じて、ホスピタリティー・マインドを学びます。

「健康相談実習」は、6年次に実施します。健康診断などに付随した健康相談に指導医に交じって参加や見学を行い、医師となる自覚、医療知識の獲得の意欲を高めます。

これらの新しいプログラムの運営は、教育開発センター内に設置した地域基盤型医療教育セッションが中心となって行います。この、カリキュラムにより、地域に根付き、地域に貢献することを喜びと感じ、地域の現場で実際に役立つ総合力のある医師を育成したいと考えています。

（編集委員会注）

藤本准教授が取組担当者となって申請した「地域に教育の場を拡大した包括的教育の取組：6年一貫で学ぶ地域基盤型医療教育カリキュラムの実現に向けて」が、大学教育充実のための文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されました。（取組期間：平成20～22年度）
※GP（Good Practice）：文部科学省が、教育の質向上に向けた大学教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、財政的な支援や、その取組について広く情報提供を行うことにより、他の大学等が、その取組を参考にしながら教育改革に取り組むことを促進することによって大学教育改革を進めることで、この「優れた取組」を、「Good Practice」と呼んでいます。「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」は、平成20年度から実施されており、これは、これまでの「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」を発展的に統合したものとなっています。

平成19年度 公立大学法人奈良

公立大学法人として、初年度の決算を行いました。

公立大学法人の会計は、企業会計原則によるものとされており、第1期事業年度（平成19年度）終了により、財務諸表（貸借対照表、損益計算書など）を作成したところです。

【貸借対照表】

貸借対照表とは、3月31日現在における全ての資産、負債、資本を記載した、公立大学法人の財政状態を表す書類です。

資産の部			負債・資本の部		
固定資産	建物	156億8,493万円	固定負債	資産見返負債	43億5,688万円
	工具器具備品	32億6,736万円		長期借入金	6億8,020万円
	図書	4億8,822万円		その他固定負債	9,009万円
	その他有形固定資産	1億1,522万円	流動負債	寄附金債務	10億7,452万円
	無形固定資産	10億3,185万円		未払金	63億2,200万円
	投資その他の資産	4,949万円		その他流動負債	9億3,557万円
流動資産	現金及び普通預金	31億 931万円	負債合計		134億5,926万円
	未収入金	41億7,393万円	資本金	200億6,617万円	
	有価証券	1億 16万円	資本剰余金	△44億3,357万円	
	たな卸資産	5億6,499万円	利益剰余金	△4億8,078万円	
	その他流動資産	2,562万円	資本合計		151億5,182万円
資産合計		286億1,108万円	負債資本合計		286億1,108万円

資産総額 286億1,108万円

主な資産

建物 附属病院本館、附属病院精神医療センター、基礎医学校舎、看護学科校舎、エネルギーセンター、附属図書館 など
 備品 定位放射線治療装置、全身用磁気共鳴断層撮影装置（当該年度購入）など
 未収附属病院収入、普通預金、医療情報システム、医薬品・診療材料（年度末在庫）

負債総額 134億5,926万円

主な負債

未払金（医薬品費、診療材料費、退職給付費用などの未払分）、資産見返物品受贈額（県からの譲与備品相当額）、寄附金債務（未使用寄附金）、長期借入金（医療用備品、周産期母子医療センター整備） など

県立医科大学の決算について

(財務企画課)

【損益計算書】

損益計算書とは、一会計期間に属する全ての費用とこれに対応する収益とを記載した、公立大学法人の運営状況を表す書類です。

経常収益から経常費用を差し引いた**経常損失は6億7,851万円**、更に臨時損失、臨時利益を加算した**当期純損失は4億8,078万円**となっています。

平成18年度とは会計基準が異なっているため単純には比較はできませんが、病院収益が前年度に比べ増加したものの、費用として人件費や医薬品費が増加する一方で、前年度からの繰越金や一般会計からの繰入金（運営費交付金に相当）が減少したことなどにより、平成19年度は赤字決算となりました。

平成20年度も引き続き厳しい経営状況が予想されますので、経営改善に向け、収入確保や経費節減など職員の皆さんにはそれぞれの分野でご協力をいただきますようお願いいたします。

区分	合計	区分	合計
教育経費	1億3,295万円	運営費交付金収益	15億3,876万円
研究経費	8億6,472万円	授業料収益等	5億9,804万円
診療経費	140億9,077万円	附属病院収益	230億6,757万円
教育研究支援経費	3億1,177万円	受託研究・寄附金等収益	8億1,169万円
受託研究費等	1億1,440万円	補助金収益	8,974万円
人件費	121億3,608万円	資産見返負債戻入	8億9,088万円
一般管理費等	1億6,854万円	雑益	1億4,404万円
経常費用計	278億1,923万円	経常収益計	271億4,072万円
経常損失	△6億7,851万円		
臨時損失	13億4,001万円	臨時利益	15億3,774万円
当期純損失	△4億8,078万円		

経常費用総額 278億1,923万円

主な費用	※ () は経常費用に占める比率
診療経費のうち、医薬品費・診療材料費	105億6,199万円 (38.0%)
人件費	121億3,608万円 (43.6%)

経常収益総額 271億4,072万円

主な収益	※ () は経常収益に占める比率
附属病院収益	230億6,757万円 (85.0%)
運営費交付金収益 (県からの交付金)	15億3,876万円 (5.7%)

附属病院から

インドネシア人看護師がやってきます。(看護部・総務課)

日本とインドネシアの経済連携協定（EPA）の締結により、我が国で初めて、外国人看護師を受け入れることとなり、本学附属病院にも2名の男性看護師がやってくることとなりました。

彼らは、関西研修センターにおいて、海外技術者研修協会と国際交流基金が実施する日本語研修などを約半年にわたって受けた後、来年2月中旬に来院し、看護補助として働きながら、日本の看護師国家試験の合格を目指す予定です。

言語の壁や文化、習慣の違いを乗り越えて、我が国の高度先進医療を学ぶためにやってくるインドネシア人看護師たちに対して各部署のご協力、ご支援をよろしく申し上げます。



Aprinaldi Abdul Munaf
(30歳 スマトラ島出身)



Yono Karjono
(26歳 ジャワ島出身)

看護部から

産婦人科外来が新しくなりました(^o^)/ (産婦人科外来)

従来の診察室は、能率主義で多くの患者さんを診察するのが目的でしたが、患者さんのプライバシーを尊重した診察が行える新しい診察室に変わりました。

車椅子でもすべての診察室へ入室できるようになり、待合室にはテレビが設置され、一般放送ではなく産婦人科のビデオを放送する予定で、現在は風景など癒しのDVDが映され、優しいBGMが流れています。

受付もオープンカウンターになり、広くゆったりと対応ができるようになりました。

職員の出産も大歓迎!! 笑顔が素敵なスタッフが皆様をお待ちしております。いつでも受診してくださいね★★★



新しくなった産婦人科外来

産科・総合周産期母子医療センターが開設されて

A棟5階 看護師長 西浦 真千代

5月26日、母体・胎児集中治療管理室（MFICU）6床と後方ベッド12床が整備され、4ヶ月が過ぎました。県や大学、そして附属病院関係者のご尽力によって、看護人員や分娩監視装置・保育器等、看護上必要な設備が整いました。MFICUは主に他施設から母体搬送される妊娠2週以降の妊娠高血圧症候群・胎盤早期剥離・前置胎盤・切迫早産・胎児異常、産後の出血（DIC）等、ハイリスク妊産婦が対象で、私たちはその治療ケアにあたっています。

NICUとの連携で、可能な限りの入院を受け入れ、現在で55名になります。

産科では、小林教授のもと、医師・助産師・看護師・看護助手・クラークのすべてのスタッフによるチーム医療を行っています。安心・安全な出産を目指し、ハード・ソフト・ヒューマンの三拍子がそろって、うまく機能していくと思えます。母子の安全管理は医師との協働により、自然分娩と管理分娩の調和をはかり、医療介入と助産師の自立した助産ケアが実施できる体制づくりが基盤だと考えます。看護部理念「人間を愛する心とかけがえのない生命を大切にします。」を唱和して業務を開始しています。確実に進化してきている周産期に対応できるよう職場内教育を継続中です。今後はスタッフ数を揃えていただいたことから、保健指導や乳房管理（母乳育児）にも力をいれて助産師・看護師にとって魅力ある職場づくりをめざしたいと考えています。

総合周産期母子医療センターの整備工事を終えて

A棟4階北 看護師長 有城 利子

総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門（以下NICU）の整備工事は関係各位のご尽力で無事終了し4ヶ月が経ちました。

現在NICU12床、後方10床で運営していますが、在胎22週～24週、体重400～500gの超低出生体重児の入院が増加し、整備された最新医療機器がフル稼働の状況です。

24時間の集中治療は言うまでもなく、現在重点を置いて取り組んでいる活動を2点紹介させていただきます。

一つ目は、母乳育児支援への取り組みです。現在毎週金曜日、児との愛着形成を高め母親の精神的安定と絆を深めるケアとして、「乳房ケア」を実施しています。

二つ目は、NICUに入院していたハイリスク児の在宅療育の支援です。在宅療育の中でいろいろと不安や問題を家族や母親は抱えています。そのため、家族、特に母親の悩みに耳を傾け、工夫している点などを広く共有できる情報交換の場を設けサポートしていきたいと思えます。

NICUに勤務していると、小さなのちの不思議と逞しさを感じずにはいられません。「児のもてる力」を最大限にサポートし、発するメッセージに応えるよう日夜努力していきます。



整備されたNICU

タンパク質のX線結晶構造解析

講師 山本 恵三

21世紀はタンパク質の時代と言われています。タンパク質の機能を調べるためには、生化学的なデータと合わせて、構造を知ることが重要になります。構造を解明することによって、タンパク質の機能がどのように発現されているかを原子レベルでの挙動として知ることができます。その手段として最も適した方法の一つがX線結晶構造解析です。

X線は波長100~0.01Åの電磁波です。これを物質に当てると、多くはそのまま物質を突き抜けていきますが、一部は吸収されたり、原子核の周りの電子によって散乱されたりします。この散乱されたX線を観測することにより、物質の中の電子の分布、すなわち物質の三次元構造を知る手法がX線解析です。X線は波の性質を持っているので、電子によって散乱されたX線は回折現象を起こします。回折はBraggの回折条件の式、 $n\lambda=2d\sin\theta$ で表されます。ここで、 λ :X線の波長、 d :格子面の間隔、 θ :入射角度です。原子間隔は炭素-炭素の一重結合が1.54Åですので、Braggの式から考えて、波長1Å程度のX線を使用すると、タンパク質分子を見ることができます。しかし、原子一個の電子からの散乱は弱すぎて観測できないので、タンパク質を結晶化し、三次元的に規則正しく並べたものにX線を照射して多数のシャープな回折点を収集し、計算により構造情報を求めます。

私はグルコース脱水素酵素やイソマルターゼなどの糖質関連酵素のX線結晶解析を行い、構造と機能の相関を研究してきました。グルコース脱水素酵素はSDR (short chain dehydrogenase)と呼ばれる酵素群に属しています。SDRに属する酵素が触媒する反応は多岐にわたり、相互のアミノ酸配列の相同性も低いのですが、構造は非常に似かよっており、安定な4量体を形成しています。しかし、*Bacillus megaterium*由来のグルコース脱水素酵素はアルカリ性条件下で可逆的に解離して失活します。我々はグルコース脱水素酵素の構造を1.7Å分解能で決定し、その結果からサブユニット同士が接触している面のうちの1つにおいて、グルコース脱水素酵素は他のSDRに比べて疎水性相互作用が弱いため解離することを明らかにしました。また、酵母由来のイソマルターゼの構造を1.35Å分解能で決定し、基質であるイソマルトースの末端の酸素原子に対して、酵素から2本の水素結合が形成されることにより加水分解される位置が決定されることや、基質結合部位が極端に狭いため、グルコース2残基からなるイソマルトースに対してのみ高い活性を有することを明らかにしました。現在、イソマルターゼにアミノ酸置換を導入した酵素を用いてさらに詳細に基質特異性の決定機構を探ることに着手するとともに、Type III glycogen storage diseaseの原因酵素であるglycogen debranching enzymeの構造解析を行っています。

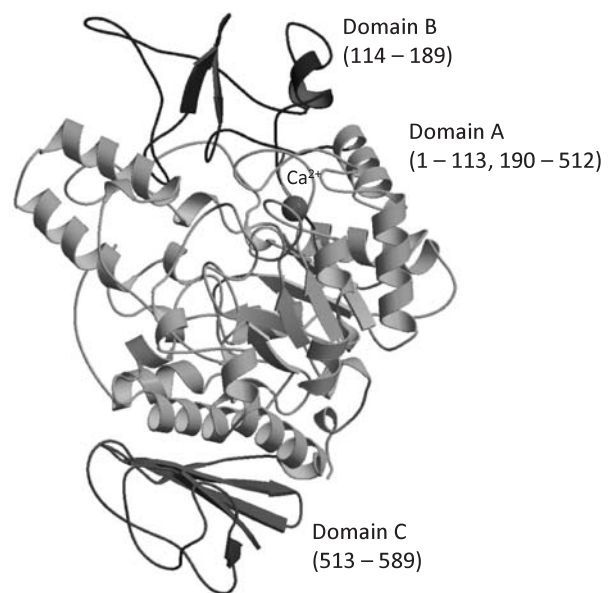


図 イソマルターゼの全体構造
酵母由来のイソマルターゼは3つのドメイン、A、B、Cより構成されている。ドメインAは α -アミラーゼファミリーで共通に見られる $(\beta/\alpha)_8$ -バレル構造を形成している。
基質結合前後における主鎖のR.M.S.D.は0.084Åと非常に小さく、基質の結合による構造変化が非常に小さいことを示唆している。

子宮動脈に何故動脈硬化が生じるのか？

教授 東野義之、講師 東野勢津子、学内講師 東 超

当教室では、ヒトの動脈の加齢変化を元素含量の変化の観点から研究し、加齢に伴い動脈硬化を生じる動脈と、ほとんど生じない動脈があることを明らかにした(1-5)。前者の動脈は大動脈、総・内・外腸骨動脈、大腿動脈、冠状動脈、子宮動脈などで、後者の動脈は内胸動脈、橈骨動脈などである。今回は、動脈硬化の発症メカニズムの解明のための糸口を与えると考えられる子宮動脈の加齢変化について述べる。

本学とタイ国のChiang Mai大学医学部の系統解剖学実習の終了後、遺体より子宮動脈を採取し、子宮動脈の遠位部を本研究に使用した。子宮動脈を蒸留水で十分に洗浄後、乾燥し、乾燥重量を秤量後、濃硝酸と過塩素酸を用い、加熱して灰化した。灰化物の元素含量をプラズマ発光分析法(inductively coupled plasma-atomic emission spectrometry)により定量し、元素含量を乾燥重量g当たりの含量として表した。

内腸骨動脈の枝のCaの蓄積量が異なるか否かを明らかにするために、52歳から96歳(平均年齢=77.4±13.1歳)の10体の日本人の内腸骨動脈の4種の枝の子宮動脈、内陰部動脈、臍動脈、閉鎖動脈の平均Ca含量を調べた(図1)。子宮動脈の平均Ca含量が最も高く、次ぎに内陰部動脈、臍動脈、閉鎖動脈の順に低くなる。子宮動脈の平均Ca含量は最低の閉鎖動脈の46倍に相当する。これらの結果は、重篤な動脈硬化を生じることが知られている内腸骨動脈の枝の平均Ca含量が非常に異なることを示している。

日本人の子宮動脈の加齢変化を明らかにするために、58歳から99歳(平均年齢=82.7±10.1歳)の27体の日本人の子宮動脈のCa含量の加齢変化を調べると、図2のように、子宮動脈のCa含量は年齢と共に有意に増加する(p=0.025)。80歳以上では、18例中6例(頻度33%)において150mg/g以上のCa含量が含まれている。このCa含量は骨のCa含量に匹敵する。70歳以上の日本人の主な動脈の平均Ca含量を図3に示している。子宮動脈の平均Ca含量は最も高く、腹大動脈などより高い。

次に、タイ人の子宮動脈の加齢変化を明らかにするために、27歳から86歳(平均年齢=63.3±17.7歳)の28体のタイ人の子宮動脈のCa含量の加齢変化を調べると、図2のように、子宮動脈のCa含量はやはり年齢と共に有意に増加している(p=0.024)。年齢とCa含量の間の相関直線の勾配は、日本人とタイ人では異なっている(図2)。タイ人の若い30歳代や40歳代の子宮動脈の各1症例に10mg/g以上のCa含量が含まれている。80歳以上では、150mg/g以上のCa含量が6例中1例(頻度=17%)に含まれている。

図4は日本人とタイ人の子宮動脈の年齢別の平均Ca含量の比較を示している。日本人では若い症例の子宮動脈を分析していないので比較できないが、タイ人ではCa含量が60歳代でかなり増加し、その後、70歳代で顕著に増加する。日本人とタイ人の子宮動脈の平均Ca含量を比較すると、70歳代では、両者は類似しているが、60歳代や80歳代では、日本人の平均Ca含量はタイ人の2倍量に相当する。

なお、PやMgに関しては示していないが、それらはCaと同様に変化した。

本研究において、日本人とタイ人の子宮動脈には共に、Caが加齢と共に非常に多く蓄積され、子宮動脈に動脈硬化が老年期に生じることが明らかである。

子宮動脈の血流は血液中の卵胞ホルモンや黄体ホルモンの濃度に依存して変動すること、そして、妊娠初期に子宮の血流量が増加することが良く知られている。Konjeら(6)は妊娠時の子宮動脈の近位の直径と子宮動脈の血流量をcolor power angiographyを用いて研究し、子宮動脈の近位の直径が妊娠後期には約2倍に拡張すること、子宮動脈の血流量が2.5倍に増加することを報告している。Kadziolkaら(7)は豚の子宮動脈の障害と出産の回数との関係を調べ、子宮動脈の硬化障害が年齢や出産回数と共に増加することを報告している。

我々は、妊娠のために、子宮への血流量の非常な増加が、子宮動脈の内膜に機械的ストレスを与え、動脈硬化を発症すると考えている。残念ながら、系統解剖学実習用の女性遺体の妊娠や出産回数は不明である。そこで、臨床の症例を用いて、妊娠や出産の経験のない女性の子宮動脈のCa含量の加齢変化と、子宮動脈のCaの蓄積量が妊娠や出産の回数と比例するかどうかを現在研究している。

なお、本研究はChiang Mai大学医学部解剖学教室のPasuk Mahakkanukrauh教授との共同研究である。

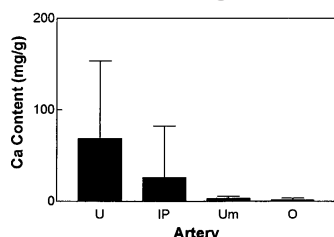


図1.子宮動脈(U)、内陰部動脈(IP)、臍動脈(Um)、閉鎖動脈(O)の平均Ca含量の比較。直線は標準偏差を示す。

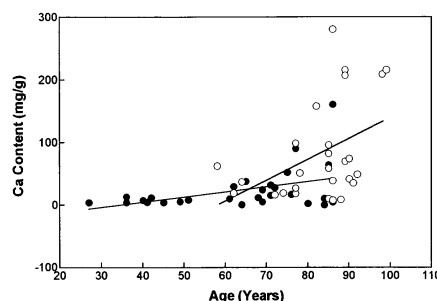


図2.日本人(白丸)とタイ人(黒丸)の子宮動脈のCa含量の加齢変化。

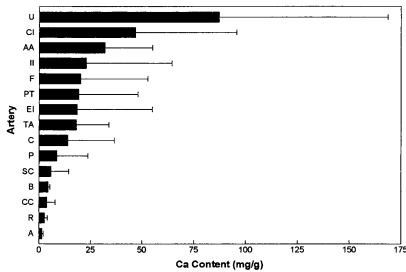


図3.70歳以上での日本人の子宮動脈(U)、総腸骨動脈(CI)、腹大動脈(AA)、内腸骨動脈(II)、大腿動脈(F)、後脛骨動脈(PT)、外腸骨動脈(EI)、胸大動脈(TA)、冠状動脈(C)、膝窩動脈(P)、鎖骨下動脈(SC)、上腕動脈(B)、総頸動脈(CC)、橈骨動脈(R)、腋窩動脈(A)の平均Ca含量の比較。直線は標準偏差を示す。

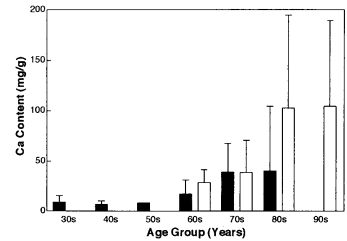


図4.日本人(白)とタイ人(黒)の子宮動脈の平均Ca含量の年齢別による比較。

文献:1) S.Tohno and Y.Tohno:Cell.Mol.Biol.44,1253-1263(1998). 2) Y.Tohno,et al.:Biol.Trace Element Res.81,115-125(2001). 3) T.Naganuma,et al.:Biol.Trace Element Res.101,203-210(2004). 4) S.Tohno,et al.:Biol.Trace Element Res.116,111-118(2007). 5) N.Ongkana,et al.:Biol.Trace Element Res.[Epub ahead of print]. 6) J.C.Konje,et al.:Intern.J.Obstet.Gynecol.110,301-305(2003). 7) A.Kadziolka,et al.:J.Anim.Sci.60,1619-1630(1985).

公開講座「くらしと医学」を開催しました (総務課)

今年度前期の公開講座を、9月6日(土)に橿原文化会館大ホールにおいて開催いたしました。

平成6年度から始まった公開講座も、今回で21回目の開催となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も早7回目となりました。

当日は、約700名と多数の聴講者を得て3つの講座が開催され、まず、座長の中島祥介消化器・総合外科学教授の紹介により、高津峯消化器・総合外科学准教授から「あなたの肝臓は大丈夫ですか?—沈黙の臓器にできる癌—」と題して、続いて、羽竹勝彦法医学教授の紹介により、車谷典男地域健康医学教授から「高齢期を健やかに生きる—健康長寿のはなし—」と題して、古家仁麻酔科学教授の紹介により中村忍総合医療学教授から「血液は健康のバロメーター」と題して講義が行われ、それぞれ活発な質疑応答がなされました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の皆さまに、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的として開催しています。

後期は、来る2月21日(土)13時より、奈良県文化会館(奈良市)で開催する予定です。ぜひご聴講くださるようお願いいたします。



吉岡学長挨拶



高准教授



車谷教授



中村教授



公開講座「宇宙での健康な長期生活」の開催報告 (生物学教室)

9月27日(土)に奈良県立医科大学公開講座「宇宙での健康な長期生活」を奈良県立医科大学大講堂において開催いたしました。本公開講座は日本宇宙生物科学会第22回大会(9月26日(金)~27日(土);大会長、大西武雄)の開催期間中に行いました。当日は一般参加者および本学関係者合わせて約400名と多数の方が出席されました。司会の吉岡章学長の紹介により、宇宙航空研究開発機構の向井千秋宇宙飛行士から「宇宙医学研究から」と題して、続いて、本学生物学大西武雄教授

から「宇宙実験の成果を生活に生かす」と題して、それぞれ大変興味深い講演が行われました。向井宇宙飛行士の実際の微小重力空間での体験談と大西教授の時にジョークを交えた研究談に参加者全員強く惹き付けられた2時間でした。



講演の様子



左より向井宇宙飛行士、大西教授、吉岡学長

病棟紹介

B棟7階 消化器・内分泌代謝内科病棟



B棟7階病棟は、病床数55床の消化器・内分泌代謝内科の病棟です。

代表的な疾患は、肝硬変、肝細胞癌、肝炎、胆石、糖尿病、胃癌、胃、食道静脈瘤があげられます。内視鏡的検査、治療、胃粘膜下層腫瘍摘出術や、硬化療法、ERCP、などにより早期発見、治療がなされています。肝臓疾患は、入退院を繰り返し、ターミナル期を迎えて、精神的、緩和ケアが要求されます。また肝性昏睡など不穏状態になり、目が離すことができません。消化管出血など緊急対応も大切です。

「誰もが頑張れる病棟」を目標に、笑顔で優しさを忘れず、医師とも仲が良く看護師スタッフ、一丸となってチーム医療に取り組んでいます。日々、いろいろなことに立ち向かい大変ですがアットホームな病棟です。

B棟5階 脳神経外科病棟



B棟5階病棟は、病棟スタッフ27名（師長を含む看護師25名、補助婦1名、クラーク1名）、外来2名（パート1名含）の笑顔美人の多い病棟です。また、やさしくてよく働く看護大好き仲間達の集団です。

手術は3回／週、血管造影検査4回／週。ベッドや車椅子による出室介助、日常生活行動の介助が多いのが特徴で、脚力・腕力を中心とした筋力UPは確実です。緊急入院、緊急手術も多く、術後の急性期看護からリハビリ期に至る看護まで幅広く学べる楽しい病棟です。看護大学の実習も受け入れており、いつも活気にあふれています。

私達と一緒に筋トレ、看護の充実感を味わいませんか！

C棟3階 集中治療部



C棟3階・集中治療部は、ICU (Intensive Care Unit) とCCU (Coronary Care Unit) を含め13ベッドを有しています。看護師41名、看護助手1名のスタッフで構成されています。

集中治療室入室の患者さんは、身体的侵襲の大きな手術の直後であったり、急性心筋梗塞を発症した直後であるため、生命に危機が及んでいたり、危機が予測される状況であるといえます。そのために専門分野の医師、訓練された看護師がチームを組み、専門的知識・技術および最新の医療機器を駆使し、24時間を通して均一な治療・看護が行われるように日々努力をしています。療養環境は、緊急事態に対処するためにすべての患者さんのモニターがどこからでも観察できるように工夫されており、また、少しでも静かな環境で療養できるように全室個室になっています。危機的状況にあるからこそ、患者さんのみならずご家族にもできる限りの配慮と心のケアを提供できるように、面会時間を延長したり、個別に面談を行ったりして個々に対応できるように心がけています。患者さんが危機を乗り越え元気に回復していく様子を目の当たりにするとき、集中治療の素晴らしさを実感します。

集中治療部では、感染管理認定看護師や呼吸療法認定士の資格をもったスタッフも活動しています。ここで働く看護師個々は自己の目標を設定し、自ら学習計画を立て、日夜専門的知識・技術・技能の向上を目指して研鑽を積んでいます。患者さん、ご家族に満足していただける看護を提供できるよう努力しています。

奈良県職員組合バレーボール大会優勝によせて

「圧巻のV2」他を寄せ付けない強さで、7月に行われた平成20年度職員組合バレーボール大会の優勝を医大支部が勝ち取りました。今年のチームは4月に医大に就職したフレッシュマンから組合バレーボール歴ウン十年のベテランの力がかみ合い余裕の試合運びで、体力と気力の限界で得た昨年が嘘の様な優勝でした。長年にわたりチームを支えているシーラカンスの様な森家・四方の屋台骨の強さ、交代勤務の厳しいスケジュールを縫って練習を重ねたチームワークが強さの秘訣であったと思います。このチームワークを来年、再来年と続けていくためにも我こそはと言う方の参加をお待ちしています。また、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。



吉岡学長を表敬訪問

平成20年度 奈良県立医科大学 白檀生祭

テーマ：あをによし・・・

日 程：10月31日、11月1日、2日

(白檀生祭実行委員一同)

今年もいよいよ1年に1度の楽しい学祭がやって参りました。地域の方々はもとより、多くの方々の来場を期待しております。

さて、本年度のイベントですが、各年齢層に絶大な人気を誇る俳優の水嶋ヒロさんのトークショーを企画いたしております。シンポジウムには、主に小児科領域で病気に悩み苦しんでいる小児患者に笑顔と喜びを届けるホスピタルクラウンとしてご活躍されておられます大棟耕介さんをお招きいたしまして、午前中は本大学病院小児科病棟において、実際にホスピタルクラウンの活動をしていただき、午後からは講演をしていただく予定となっております。また本年度から基礎医学解剖学をはじめ、医学に関する展示、催しをいたします。また、企画といたしまして、本年も金魚すくい大会を予定しております。そのほか、野外メインステージにて各クラブによるライブや面白イベントなど多数企画しておりますので是非お越しください。詳細は白檀生祭ホームページにてご確認ください。

白檀生祭ホームページ：<http://www.geocities.jp/named08fes/>

○メインイベント

31日：相撲大会（場所：相撲場）、球技大会（場所：体育館）

1日：クリニックラウン実演（場所：小児科病棟）、シンポジウム（場所：大講堂）

2日：金魚すくい（場所：ステージ前）、イベント（場所：体育館）

※シンポジウムは入場無料です。

※水嶋ヒロさんのトークショー入場にはチケットが必要です。チケットぴあでお求めください。

チケットぴあTel：0570-02-9999 Pコード：610-666

パソコン、携帯電話から：<http://pia.jp/t>

※金魚すくい選手権大会は事前にエントリーをホームページで受け付けております。エントリーは当日も朝9時から会場本部で受け付けておりますが定員となり次第受付を終了させていただきます。

本年度の白檀生祭を運営するにあたって、各教室の先生方にはご援助をしていただき大変ありがとうございます。これからもよりよい白檀生祭を目指してまいりますので、何卒ご協力よろしく申し上げます。

オープンキャンパス実施結果



会場風景

(学務課)

8月9日(土)にオープンキャンパスを行いました。
当日は、高校生を中心に医学科と看護学科あわせて約550名の参加がありました。また、施設見学は各学科とも100名の定員全てに申込があり、人気の高さが裏付けられました。
オープンキャンパスの実施に当たっては、学長をはじめとし、教員の方々、そして在学生のボランティアの皆さんのご協力により、成功裡に終わることができました。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご協力をお願いします。

(研究推進課)

文部科学省「平成20年度都市エリア産学官連携促進事業」に採択されました。

奈良県、京都府、大阪府の3府県が共同提案した「ユビキタス生体計測ヘルスケアデバイス・システムの開発」が文部科学省「平成20年度都市エリア産学官連携促進事業」に採択されました。この事業のスキームは、国が3府県の指定した中核機関(ここでは(財)関西文化学術研究都市推進機構)に業務委託し、学研都市推進機構はその業務の一部を大学へ再委託するというものです。

研究期間は平成20年7月1日～平成23年3月31日で、平成20年度分の委託費は約1億8千万円です。本学が委託されたのは下表の2テーマで、研究経費は、約2千2百万円です。両テーマとも最終年度には、本学で実証試験を行うことが予定されています。

このシステムの実現により医師及び患者の負担軽減のみならず、医療機関の省力化、それに伴う医療費の軽減が図られることが期待されます。

事業テーマ (委託業務の題目)	研究テーマ (サブテーマ)	研究代表者	研究内容
ユビキタス生体計測ヘルスケアデバイス・システムの開発	泌尿器計測モジュールの開発	泌尿器科学 教授 平尾 佳彦	排尿障害の検討用として、携帯式尿流率計、電子排尿日記、医療用汎用SoC(System on a Chip)を内蔵したカプセル型圧力センサーの生体計測モジュールを開発する。
	妊婦見守りモジュールの開発	産婦人科学 教授 小林 浩	医療用汎用SoCデバイスのLSI化で、無拘束・無侵襲で在宅で生体計測可能な子宮圧センサー・マイク内蔵の体表貼り付け型センサーが可能となり、加えてデータ処理や通信手段内蔵の電子母子手帳プロトタイプを開発する。

住居医学研究会を開催します！

第22回	日時	平成20年11月14日(金) 16:00～17:30
	演題	最新のロボット技術の医療への応用～失われた機能を補うロボットスーツの開発～(調整中)
	講師	筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授 山海 嘉之氏
	会場	基礎医学校舎5階会議室
第23回	日時	平成20年12月17日(水) 16:00～17:30
	演題	室内の温室環境と健康
	講師	NPO法人シックハウスを考える会 理事長 安全な住環境に関する研究会 事務局長 上原 裕之氏
	会場	基礎医学校舎5階会議室

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

top.naramed-u.ac.jp/ → 「規程・名簿タブ」

※は、公開ホームページに掲載

www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第7回 教育研究審議会（7月8日）

- 1 基礎看護学教授として藤田比左子氏を承認し、役員会に提案
- 2 8月1日付け教員人事を承認し、役員会に提案

第16回 役員会（7月8日）

- 1 基礎看護学教授として藤田比左子氏を決定
- 2 8月1日付け教員人事を決定

第17回 役員会（7月9日）

- 1 学則の変更を含む看護学教科カリキュラム改正骨子について承認
- 2 会計規程の一部改正について検討
- 3 契約規程の一部改正について、7月9日付けで改正・施行
- 4 看護師採用試験結果について報告
- 5 職員採用試験の応募状況について報告

第18回 役員会（7月16日）

- 1 会計規程の一部改正について、7月16日付けで改正・施行
- 2 教授選考（第一解剖・整形外科）の開始について報告
- 3 指導管理料算定のためのシステム開発について報告

第8回 教育研究審議会（7月23日）

- 1 9月1日付け教員人事を承認し、役員会に提案
- 2 寄附講座（住居医学講座）教員人事を承認し、役員会に提案
- 3 看護学教科カリキュラム改正について、看護教育検討部会で検討のうえ、7月9日開催の役員会において改正を承認、文部科学省へ提出することとした旨報告
- 4 インドネシア人看護師のマッチング結果について、(社)国際厚生事業団より採用者通知があった旨、本学としてマッチング結果同意書を提出した旨報告
- 5 看護職員配置数の推移について報告

第19回 役員会（7月23日）

- 1 9月1日付け教員人事を決定
- 2 寄附講座（住居医学講座）教員人事を決定

第20回 役員会（7月30日）

- 1 決算状況の説明及び6月末現在の財務状況について報告
- 2 10月以降の医事委託について、新たな契約を結ぶため、プロポーザルを実施した旨報告
- 3 大学病院連携型高度医療人養成推進事業の採択結果については不採択となった旨、採択された富山大学のプログラムに産婦人科が参画している旨報告
- 4 看護学科3年次編入学試験の応募状況について報告
- 5 事務職員等1次試験合格者を決定
- 6 看護職員採用試験の合格者を決定

第21回 役員会（8月6日）

- 1 医療安全推進規程の一部改正について、8月6日付けで改正・施行
- 2 学生定員増に関する意向調査の回答について、定員増の方向で学長に一任することを決定
- 3 決算状況の職員への説明について報告
- 4 大学病院連携型高度医療人養成推進事業の採択結果統報について、一部復活要求の準備をし、2年間に渡り本格的な対応を図ることとなった旨報告
- 5 平成21年度臨床研修医試験出願状況について報告
- 6 医療職員1次試験合格者を決定

第22回 役員会（8月27日）

- 1 職員提案制度の実施を決定
- 2 7月末現在の財務状況について報告
- 3 患者アメニティ向上のための整備について報告
- 4 医学部定員増に係る国への回答について報告
- 5 看護師採用試験の応募状況について報告
- 6 稼働病床の見直しについて報告
- 7 ジェネリック医薬品の使用状況について報告
- 8 「質の高い大学教育推進プログラム」について、ヒアリングに出席した旨報告
- 9 基礎看護学教授藤田比左子氏の着任時期について報告
- 10 事務職員2次合格者を決定

第23回 役員会（9月3日）

- 1 教育研究審議会（9/4）予定案件を報告
 - (1) 教員人事について
 - (2) 特任教員について
 - (3) 教授選考スケジュールについて
 - (4) 医学部定員増に伴う学則改正（案）について
 - (5) 医の倫理委員会委員の改選について
- 2 6月末現在の平成20年度年度計画の進捗状況について説明
- 3 公開講座「宇宙での健康な長期生活」の開催について報告
- 4 セアカコケグモの棲息状況について報告、ポスターの掲示等、至急、注意喚起することを決定
- 5 医療職員の2次合格者を決定
- 6 看護職員採用試験の合格者を決定
- 7 医療過誤に係る処分手続きについて検討、継続審議

第9回 教育研究審議会（9月4日）

- 1 第1解剖学、整形外科学における教授選考の進め方について、次回教育研究審議会において両教室員から意見聴取することを決定
- 2 10月1日付け教員人事を承認し、役員会に提案
- 3 「がんプロフェッショナル養成プラン」推進のため、放射線腫瘍医学講座に特任助教を10月1日付けで採用することを承認し、役員会へ提案
- 4 10月31日付け任期満了に伴う医の倫理委員会委員の改選について、人選については学長に一任することを承認
- 5 医学部定員増に伴う学則改正（案）を承認し、役員会に提案
- 6 「質の高い大学教育推進プログラム」について、文部科学省のヒアリングに出席・説明を行った旨報告
- 7 外国人客員研究員（胸部・心臓血管外科学）の受入れ期間変更について報告
- 8 職員提案制度の実施について報告
- 9 平成20年度年度計画の進捗状況について報告
- 10 公開講座「宇宙での健康な長期生活」の開催について報告
- 11 基礎看護学教授の着任時期について、11月1日の予定である旨報告
- 12 セアカコケグモに対する注意喚起について、本学敷地内における棲息が確認された旨、ポスター等により、学生、来学者等に周知するとともに、素手で触れないこと等、注意喚起する旨報告

第24回 役員会（9月4日）

- 1 10月1日付け教員の採用・昇任を決定
- 2 「がんプロフェッショナル養成プラン」推進のため、放射線腫瘍医学講座に特任助教を10月1日付けで採用することを決定
- 3 学則の改正を決定

第10回 教育研究審議会（9月9日）

- 1 教授選考にかかる教室員からの意見聴取について、第一解剖学及び整形外科学の教授選考に係る基本方針の策定にあたり、各教室員より意見聴取

第25回 役員会（9月10日）

- 1 共用試験（CBT）受験料の取り扱いについて、次回教育研究審議会に提案することを決定
- 2 医学教育を通じた医師不足対策について報告
- 3 患者アメニティ整備について、進め方を検討したい旨報告
- 4 A棟の改修について、関係する診療科のヒアリングを実施し、予算要求等進めたい旨報告
- 5 学生定員増に関する予算要望について、設置協議会と共同で要望書を提出したい旨説明
- 6 附属病院紹介誌「医療の最先端」の発刊について報告
- 7 附属病院医事業務受託業者の交代について報告

第26回 役員会（9月17日）

- 1 患者アメニティ向上のための整備について、意見を踏まえ、整備内容の検討を進めることを決定
- 2 平成20年度年度計画の修正について報告
- 3 セアカコケグモの棲息に関して取材があり、報道の可能性がある旨報告
- 4 国への要望について報告
- 5 文部科学省2009年度予算概算要求について説明

平成21年度 入試日程

(学務課)

医学部

学 科 別	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学科	推薦・社会人	30 ^(名)	平成20年11月4日(火)～11月5日(水)	11月22日(土)	12月9日(火)
医学科	推薦	5	平成20年12月16日(火)～12月19日(金)	2月8日(日)	2月10日(火)
医学科	前期	65	平成20年1月26日(月)～2月4日(水)	2月25日(水) 2月26日(木)	3月5日(木)
看護学科	前期	40		3月12日(木)	3月23日(月)
医学科	後期*	30			
看護学科	後期*	10		3月13日(金)	

*医学科後期日程の募集人員には地域枠を含みます。看護学科後期日程は地域枠のみの募集となります。詳しくはホームページで確認してください。(http://www.naramed-u.ac.jp/~jyuken/) なお、看護学科の推薦・社会人の募集要項は、学務課厚生・入試係で配布中です。医学科の推薦募集要項は10月下旬頃、その他の募集要項は11月中旬頃に配付予定です。

医学部医学科において5名の入学定員増を申請しています

昨年、国の緊急医師確保対策として平成20年度から10年間5名の定員増が認められ、医学科の入学定員は100名となりましたが、今年度も医師養成の推進を行う国の方針をうけ、現在5名の入学定員の増加を申請しています。このことが認可されれば、医学科の定員は平成21年度入試においては105名となります。

大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7 ^(名)	第一次募集 平成20年11月10日(月)～11月14日(金)	第一次募集 11月26日(水)	第一次募集 12月9日(火)
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集 平成21年2月16日(月)～2月20日(金)	第二次募集 3月4日(水)	第二次募集 3月23日(月)
生体分子・機能再建医学専攻	20			

社会人(企業、研究所、病院、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者)の入学も可能です。

大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5 ^(名)	第一次募集 平成20年9月8日(月)～9月12日(金)	第一次募集 9月24日(水)	第一次募集 10月14日(火)
		第二次募集 平成21年2月2日(月)～2月6日(金)	第二次募集 2月18日(水)	第二次募集 3月5日(木)

社会人(医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等において、平成21年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有する者)の入学も可能です。

学生募集要項は、学務課教務係で配付しています。また、ホームページでも確認できます。(http://www.naramed-u.ac.jp/~jyuken/)

下ツ道

(編集後記)

秋も深まり朝夕は肌寒さを覚える昨今、体調を崩されたりなどしていませんか?私の周りにも風邪の人がちらほら、皆様も気を付けましょう。

今号には奈良医大の平成19年度の決算報告が掲載されていますが、こちらも冷え込みが厳しいようですね。しかし奈良医大は今、病院をはじめ活発に活動していますので、必ず良くなると信じています。少しでも早く暖かくなるといいですね。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村 知明(健康政策医学)
大西 健(生物医学)
粕田 承吾(法医学)
植村 正人(内科学第三)
中島小乃美(成人看護学)
澤 清美(看護学部)
福留 隆二(研究推進課)
芳倉 亮(学務課)
北村 好伸(病院管理課)
鷹野 覚(総務課)
(○印は委員長)